プロトンポンプ阻害剤やH2受容体拮抗剤の服用はH.pylori鏡検法による感染診断感度に影響を与えるか？

堀井　孝容
（　医療法人堀井医院　）

【目的】　鏡検法によるH.pylori(Hp)除菌前感染診断の感度は,特異度92~98.8%と優れた方法である.一方プロトンポンプ阻害剤(PPI)服用によりHpがcoccoid formに変化したり,胃小窩深部に移動し壁細胞の細胞内分泌細管内に迷入することがあり,非特異染色のみではHpを検出できないことがある.またH2受容体拮抗剤(H2RA)服用が鏡検法にどのような影響を与えるかは明らかではない.今回当院にて他法でHp陽性だった症例において, PPIやH2RA服用の有無と鏡検法での陽性率との関連を後方視的に検討した.

【方法】　対象は2014~2018年に当院で上部消化管内視鏡検査を施行し,他法(迅速ウレアーゼ試験173例,血清抗体測定法53例,尿素呼気試験2例,便中抗原測定法1例)でHp陽性と診断した229例(男性105例,年齢中央値66.0±12.6歳).PPI服用群,H2RA服用群,無投薬群における鏡検法陽性率の差をFisherの正確検定を用いて検討した.なお鏡検法は内視鏡施行時に胃前庭部大彎と体中部大彎の2か所から生検を行い,H&E法とギムザ染色で臨床情報なしに複数の病理医によって判定した.

【結果】　鏡検法陽性率は全体で85.2%だった.うち無投薬群で90.2%であったのに対し,PPI服用群で67.6%と有意に低かった(P=0.0015).またH2RA服用群では77.4%と有意ではないが低い傾向だった(P= 0.0633).疾患別では胃潰瘍,十二指腸潰瘍,胃十二指腸潰瘍,胃癌,萎縮性胃炎のみの症例群の間に有意差はみられなかった.性別,年齢でも有意差はみられなかった.

【結論】　今回の後方視的検討ではPPIが有意に鏡検法陽性率に影響を及ぼす傾向がみられた.今後免疫染色などを用い,鏡検法偽陰性症例でのHpの形態や存在部位などの検討を行う予定である.